

5種混合ワクチンを受けましょう!

監修

福岡看護大学 客員教授 岡田 賢司 先生

5種混合ワクチンで
予防できる病気

ジフテリア

百日せき

破傷風

ポリオ

Hib[※](ヒブ)
感染症

※インフルエンザ菌b型

5種混合ワクチンとは

4種混合ワクチンとHibワクチンが一緒になったワクチンです。

▶ 百日せきとは…

風邪のような症状ではじまり、徐々に咳がひどくなり顔をまっ赤にして連続的に咳き込むようになります。

コンコンと激しく咳き込んだ後に、息を吸うときにヒューという笛のような音を立てる特有の咳が出ます。この咳は連続性・発作性となり数週間にわたって続きます。咳が原因で眠れなかったり、顔が腫れることもあります。年齢が低いほど症状は重く、無呼吸発作やけいれんを起こすこともあります。

▶ 破傷風とは…

土壌中の破傷風菌が傷口から体内に入ることによって感染します。破傷風毒素により神経麻痺、筋肉の激しいけいれんや呼吸困難などを起こします。

口が開き難い、首の硬直などの症状にはじまり、嚥下障害や排尿・排便の障害などを経て、最後に全身の筋肉が硬くなって体が弓のように反り返ったり、息ができなくなるなどし、亡くなることもあります。

▶ ジフテリアとは…

のどや鼻にジフテリア菌が感染し、発熱、嘔吐、のどの痛み、犬吠え様の咳などの症状が出ます。偽膜と呼ばれる膜がのどにでき、窒息して亡くなることもあります。

ジフテリア菌に感染すると、10%程度の方が亡くなるといわれています¹⁾。特に5歳以下や40歳以上の場合は重症化しやすく、最大で20%の方が亡くなるといわれています¹⁾。

▶ ポリオとは…

「小児麻痺」とも呼ばれ、四肢に麻痺を起こします。日本では高いワクチン接種率により自然感染による患者発生はありませんが、ポリオウイルスがいつ海外から入ってくるかわかりません。

ポリオウイルスが人の口から入ることで感染します。腸内で増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。90～95%は、感染しても病気としての明らかな症状は現れず、麻痺症状が出るのは0.1～2%ですが²⁾、麻痺が起こると生涯続く場合があります。

▶ Hib(ヒブ)感染症とは・・・

インフルエンザ菌の中でb型の**莢膜**をもつ細菌(Hib)による感染症で、髄膜炎や敗血症などの重い病気を起こすことがあります。ほとんどが乳幼児で発生しますので、注意が必要です。

インフルエンザ菌は、のどや鼻の奥にいる身近な細菌で、主にくしゃみや咳などから感染し、肺炎などの病気を起こします。インフルエンザ菌の中で、Hibは血液中に入り込みやすく、重い感染症をひき起こします。ワクチン未接種の場合、死亡率は3～6%で、特に髄膜炎の場合は、生存した子どもの20%に発達の遅れや難聴などの後遺症を残すといわれています³⁾。

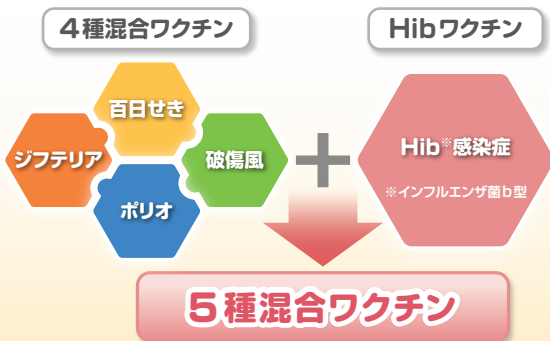


- 1) 厚生労働省. "ジフテリア". https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/diphtheria/index.html, (参照 2024-1).
- 2) 国立感染症研究所. "ポリオ(急性灰白髄炎・小児麻痺)とは". <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/386-polio-intro.html>, (参照 2024-1).
- 3) 厚生労働省. "Hib感染症". https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/hib/index.html, (参照 2024-1).

4種混合ワクチンにHibワクチンが加わり、
5種混合ワクチン になりました。

混合ワクチンとは、複数のワクチンがはじめから1本の注射液に混合して含まれているものです。日本ではこれまで百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオの4種混合ワクチンが使用され、Hibワクチンは4種混合ワクチンとは別に接種されてきました。

従来の4種混合ワクチンにHibワクチンを加えたものが、5種混合ワクチンです。



5種混合ワクチンを受ける時期は？

生後2か月から90か月(7歳半)までに、**合計4回** 接種します。

5種混合ワクチンの標準的な接種スケジュール

初回免疫 生後2か月から7か月未満で開始し、20～56日の間隔で **3回** 接種

追加免疫 初回免疫終了後6か月から18か月を経過後に **1回** 接種



合計4回の接種を受けると基礎免疫が完了します。特に、4回目の接種を忘れないように、上手に接種スケジュールを組みましょう。ワクチンを接種することは感染症から人々や社会を守るというベネフィットがある一方、副反応のリスクもあります。ワクチン接種に関して気になることは、お住まいの市区町村またはかかりつけ医に相談しましょう。

4回目接種を
忘れずに！

